

高年不妊患者の妊娠・分娩と児の予後の研究

太田総合病院 産婦人科

山口 禎 章・高橋 茂 康

慶応大学病院 産婦人科

谷 本 敏・牧野 恒 久

小林 俊 文・飯塚 理 八

高年不妊患者の妊娠・分娩と児の予後

35才以上の高年不妊患者の妊娠、分娩、児の発育状況を、1980年および1981年の2年間に太田総合病院で分娩した症例を対象として調査した。同期間の慶応大学病院産科での分娩例についても調査し比較検討した。

太田総合病院での同期間の分娩は1904例あり、分娩年令構成は25～29才までが最多年令層で51.5%をしめており、25～34才までに84.1%が集中している。24才未満は10.9%であり、35才以上は5%、95例で高年不妊患者の分娩例は18例である。慶応大学病院では同期間に1,865例の分娩があり、35才以上の高年出産者は228例、高年不妊患者は64例であった。分娩年令構成は30～34才までが、最多年令層であり44.1%をしめ、25～34才に82.3%がある。24才未満は5.5%にすぎず、35才以上は12.2%、40才以上でも1.8%となっている。このように、太田総合病院に比べ高年化傾向が強く、不妊治療センターをもつ大都市大学病院としての特徴が認められる。

太田総合病院の18例の高年不妊患者の不妊因子別分類は、卵管因子4例、排卵、着床因子4例、男性不妊因子1例、機能性不妊等を含むその他が9例となっている。慶応大学病院での不妊因子別分類は、64例のうち卵管因子20例、排卵、着床因子12例、男性不妊因子21例、その他11例となっている。

太田総合病院での高年不妊患者の分娩までの平均在胎週数は39.2週で、その他の高年出産者の在胎週数と特に差は認められない。妊娠中毒症発症率は、35才以上の高年出産者で12.6%であるが、不妊患者では22.2%とやや高率となった。多胎妊娠例は、35才以上の高年出産者で2年間に双胎1例であるが、高年不妊患者では認められなかった。慶応大学病院でも2年間で35才以上の228例のうち3例に双胎を認めたが、不妊患者ではなかった。

分娩形式は、太田総合病院で2年間の全分娩例の帝

切率が12.5%であるのに対し、35才以上では32.6%、高年不妊患者では27.8%であり、不妊患者で帝王切開分娩が特に多いということはなかった。慶応大学病院での全分娩例の帝切率は15.3%であったが、35才以上では30.3%、高年不妊患者では43.8%となり不妊患者での高い帝切率が目立った。

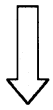
高年不妊患者の出生児の性別は、太田総合病院で男児10人、女児8人であり、慶応大学病院では男児31人、女児31人で男女差は認められていない。

平均生下時体重は、太田総合病院では男児2964±652gr (SFDの3例をふくむ)、女児3121±460gr (32週早期産児1例をふくむ)であり、慶応大学病院では男児3111±678gr、女児3253±421grであった。

児の奇形は、35才以上の高年出産者で、太田総合病院に2例、慶応大学病院に3例認められたが、両病院とも高年不妊患者には奇形例は認められなかった。

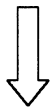
児の新生児期の経過としては、太田総合病院の18人のうち低体重児の4例および子宮内感染を疑われた1例の計5例がNICUへ収容されたが、各症例ともその後の経過は順調であった。

児の発育状況は、太田総合病院の高年出産者のうち男児50例、女児31例、高年不妊患者では男児7例、女児7例が追跡調査可能であった。男児、女児とも体重および身長については、厚生省昭和55年乳幼児身体発育調査に比較し特に劣ってはいない。慶応大学病院での追跡調査可能症例は、男児54例、女児48例、高年不妊患者で、男児19例、女児25例であったが、体重および身長について同様の結果を得た。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



35才以上の高年不妊患者の妊娠,分娩,児の発育状況を,1980年および1981年の2年間に太田総合病院で分娩した症例を対象として調査した。同期間の慶応大学病院産科での分娩例についても調査し比較検討した。

太田総合病院での同期間の分娩は1904例あり,分娩年齢構成は25~29才までが最多年令層で51.5%をしめており,25~34才までに84.1%が集中している。24才未満は10.9%であり,35才以上は5%,95例で高年不妊患者の分娩例は18例である。慶応大学病院では同期間に1,865例の分娩があり,35才以上の高年出産者は228例,高年不妊患者は64例であった。分娩年齢構成は30~34才までが,最多年令層であり44.1%をしめ,25~34才に82.3%がある。24才未満は5.5%にすぎず,35才以上は12.2%,40才以上でも1.8%となっている。このように,太田総合病院に比べ高年化傾向が強く,不妊治療センターをもつ大都市大学病院としての特徴が認められる。